

竜巻の基礎知識

竜巻は、発達した積乱雲の強い上昇気流によって発生する激しい空気のうず巻きです。うずの直径は数十～数百メートルに及び、しばしば漏斗状または柱状の雲を伴います。

竜巻による被害の特徴



- ⚡ 風速が毎秒 70 メートルを超えるような猛烈な風が吹くことがあり、短時間で狭い範囲に集中的に被害をもたらします。
- ⚡ 猛烈な風によって、建物が基礎から転倒したり、車が巻き上げられて横転したりする場合があります。
- ⚡ 竜巻は高速で移動することがあります。過去には、時速 90 キロ以上で移動した竜巻が確認されています。
- ⚡ 発生状況を見ると、7月から増え始め9月をピークに11月まで多く発生しています。この時期は前線や台風の影響および大気の状態が不安定になりやすいためです。
- ⚡ 地域的な発生の特徴を見ると、1年を通して沿岸部で多く発生するほか、夏は内陸部でも発生します。

⚡ポイント! 竜巻が接近してきた場合の周囲の変化

- 1 空が急に暗くなる
- 2 大粒の雨や「ひょう」が降る
- 3 漏斗状の雲が目撃される
- 4 「ゴー」というジェット機のような音が聞こえる
- 5 飛散物が筒状に舞い上がる
- 6 気圧の変化で耳に異常を感じる



🌸 福岡県では

竜巻

福岡県内では、昭和 36 年（1961 年）以降平成 23 年（2011 年）までに 18 回の竜巻が確認されています。発生時の気象状況としては、台風接近時よりも前線の影響によるものが多くなっています。（出典：「福岡県地域防災計画（基本編・風水害対策編）」）

土砂災害・竜巻発生時の対応

土砂災害から避難するポイント

土砂災害は被災すると命に関わる危険が高いため、早めの避難が重要です。県が指定する「土砂災害警戒区域（通称イエローゾーン）」や「土砂災害特別警戒区域（通称レッドゾーン）」に自宅がある人は、特に厳重な警戒が必要です。

ポイント

1 ほかの土砂災害危険区域を通らない

避難する際は、ほかの土砂災害危険区域（危険箇所・警戒区域など）を通らないようにしましょう。



ポイント

2 雨がやんだ後も注意

これまで降った雨が土の中に残っています。雨がやんでも大雨警報が発表されている間は、土砂災害が発生するおそれがあるので警戒しましょう。

ポイント

3 前兆現象を知り早めに避難

土砂災害の発生前には、前兆現象がみられることがあります。前兆現象を知ったときは、速やかに避難しましょう。

ポイント

4 土石流に直面したときの逃げ方

土石流のスピードは時速 20～40 キロと大変速く、流れに背を向けて逃げても追いつかれてしまいます。土砂の流れる方向に対して直角に走って逃げましょう。

ポイント

5 避難の余裕がないときの緊急避難

比較的高い鉄筋コンクリート造りなどの堅固な建物の 2 階以上で、斜面から離れた位置にある部屋に避難しましょう。

土砂災害警戒情報とは

大雨などにより土砂災害発生の危険が高まったとき、県と気象台が共同で「土砂災害警戒情報」を発表します。情報が出たら避難開始の目安です。



竜巻が迫ってきたら

住宅内では

- 窓は閉め、カーテンも閉める。
- 雨戸やシャッターを閉める。
- 家の中心部に近い、窓のない部屋に移動する。
- 地下室や建物の最下階に移動する。
- 低い姿勢を取り、両腕で頭と首を守る。



屋外では

- 近くの頑丈な建物内に避難する。
- 車の中、物置や車庫・プレハブの建物などには逃げない。
- 近くに頑丈な建物がない場合は、水路や溝などくぼんだ場所（急な豪雨に注意）や物陰に身を伏せ、両腕で頭と首を守る。

オフィスビルなどでは

- 窓のない部屋や廊下へ移動する。
- ガラスのある場所から離れる。
- エレベーターは停止するおそれがあるので乗らない。
- 低い姿勢を取り、両腕で頭と首を守る。



大雨や土砂災害に関する気象情報の入手方法

福岡管区気象台ホームページの利用例

大雨の気象情報を確認する場合

- 1 「福岡管区気象台」のホームページにアクセスする
- 2 「最新の情報」の中にある「防災気象情報」をクリックする
- 3 「警報・注意発表状況」をクリックする
- 4 九州地方の地図が表示されるので、「福岡県」の上にマウスを載せてクリックする

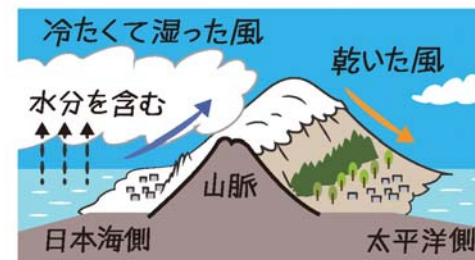


5 福岡県の市町村リストが表示され、現在発令されている大雨警報・注意報などを確認することができる

6 さらに、リストから該当市町村を選択すると、注意報や警報が発表されていなくても「警報級の可能性」が確認できるほか、詳細な気象情報を確認することができる

大雪の基礎知識

冬の代表的な気圧配置は、日本列島をはさんで西に高気圧、東に低気圧がある「西高東低」です。冬になると、大陸の高気圧から冷たく乾いた北西の季節風が日本列島に吹いてきます。この冷たい風は温かい日本海から大量の水蒸気を吸収して雪雲をつくり、日本海側で雪を降らせます。雪を降らせた後の乾いた空気は、日本列島の中央を走る高い山脈を越えて太平洋側に吹き下りていきます。このため太平洋側では冬は晴れやすくなります。



雪のもたらす災害

毎年、全国各地で大雪による被害が出ています。降雪地域だけに限らず、都心部でもさまざまな被害をもたらすことがあります。

人への影響

- 路面凍結に伴う車のスリップ事故や転倒などでの重軽傷
- 除雪が追いつかず、町内や集落で孤立状態に
- 外出先からの帰宅困難



住居への影響

- 雪の重みや大量の雪解け水による損壊や浸水などの家屋被害
- 停電、断水、固定電話の不通
- 車庫（カーポート）の屋根の崩落

交通への影響

- 高速道路や国道など道路の通行止め
- 鉄道の運転中止
- 飛行機の欠航

その他

- 公共施設の屋根が崩れ落ちる
- 農作物などの損傷、ビニールハウスの破損
- 携帯電話の使用不可

福岡県では

大雪

平成28年（2016年）1月23日から25日にかけての記録的な寒波により、山間部を中心に大雪となったほか、県内全ての観測地点（14か所）で最低気温が氷点下を記録するなど厳しい寒さに見舞われました。路面凍結などによる歩行者の転倒事故等が相次いだほか、水道管の凍結・損傷によって28市町村、22万842世帯（県発表、平成28年（2016年）2月9日）で断水となりました。